

老朽化が進む浄化センター設備の改築を集中的に実施し、予防保全型インフラメンテナンスを着実に推進

(1) [対策名]83

下水道施設の老朽化対策

◆事業名 防災・安全交付金事業
(流域下水道事業)

ごじょうがわさがん

◆処理場 五条川左岸浄化センター
(小牧市新小木)

(2) 事業概要

◆目的: 健全度が低下した
浄化センター設備の改築

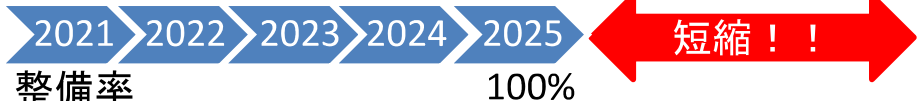
◆総事業費: 約40億円
(5か年加速化対策事業費: 7.4億円)

◆事業期間: 2020年～2025年

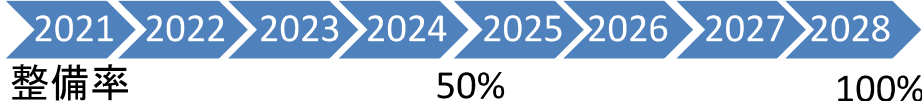
◆整備内容: 水処理施設機械設備更新工事(散気装置)
分配槽設備更新工事 等

(3) 事業スケジュール及び効果

◆5か年加速化
対策活用



◆当初見込み



◎ 五条川左岸浄化センターの特徴

- 1987年に供用開始しており、設備の老朽化が進んでいる。
- 処理場が住宅地のそばにあり、下水処理が停止した場合、周辺の住環境へ与える影響が大きい。



水処理施設機械設備更新工事(散気装置)



汚水処理に必要な空気を送り込む設備を省エネ型に更新
消費電力47%減

年間123t-CO₂を削減

分配槽機械設備更新工事



壊れると水量の調整ができなくなり水質が悪化する恐れがある。

【効果】
➤老朽化に起因する下水処理の停止リスクの解消。
(改築が必要な、健全度が低下した設備数ゼロ)